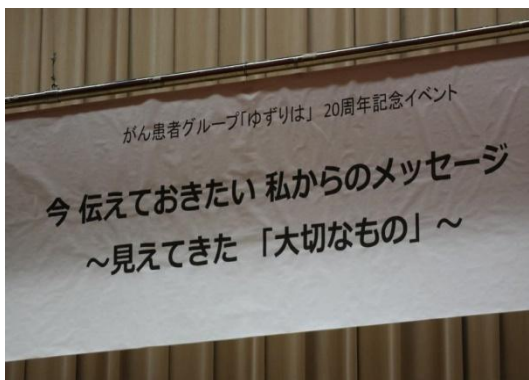




ゆずりは 20周年記念イベント実施報告書

今、伝えておきたい私からのメッセージ

～見えてきた「大切なもの」～



2016年12月1日

がん患者グループゆずりは

代表 宮本 直治

1. 実施概要

企画名：ゆずりは 20 周年記念イベント

今、伝えておきた、私からのメッセージ～見えてきた「大切なもの」～

目的：「がんになったことで見えてきた人生の大切なもの」を語る場

日時：2016 年 11 月 3 日（祝）13:00～16:30

場所：兵庫県民会館（神戸市中央区） 9 階 けんみんホール

参加費：一般 500 円、学生無料

参加者：約 150 名（発表者、運営スタッフ含む）

主催：がん患者グループゆずりは

後援：兵庫県、神戸市、日本ホスピス・在宅ケア研究会、

NPO 法人がん患者団体支援機構

助成 第 7 回ニッセンライフ基金がん患者団体支援機構助成対象事業

2. 実施内容

1 部：基調講演 13:05～13:45

阿南里恵氏（子宮頸がん体験者）「神様に生かされた理由」



私は 23 歳の時に子宮頸がんになり、抗がん剤、手術（子宮の全摘出）、放射線治療を受けることになりました。転職したばかりの職場を辞め、その後で、リンパ浮腫等の後遺症に苦しみながら、職を転々としました。起業もしましたが、失敗しました。治療終了から 5 年を過ぎてからは、私のような人を出さないという想いで、がん啓発の講演会活動を積極的に行いました。

でも、30代半ばになり、気が付きました。「私には安定した仕事も、くつろげる家庭もない。自分が満たされていないのに、誰かを幸せにすることなんてできない」と気が付きました。自分を見つめ直し、キャリアコンサルタントに相談し、インテリアコーディネーターの資格を取りました。リンパ管細静脈吻合術を受け、リンパ浮腫の後遺症を減らしました。この結果、4月からは、建設会社で働き、充実した毎日を送っています。「仕事の次は結婚を！」と、頑張っています。

私が35歳まで生きてこられたからこそ気付いた3つのことがあります。

1. 「命はいつ終わるかわからない。それは自分も家族も友達も、みんな同じ。だから今日を大切にする。」
2. 「辛くて辛くてたまらなくなったらSOSを出す。」
3. 「幸せは比べられない。自分が気づくこと。感じること。」

2部：体験発表 14:10～15:55

一般市民から公募した発表者、6人が、実体験をかけて、『がんになったこと
で見えてきた人生の大切なもの』を発表した。 コメンテーター：田村 亮氏
(國富胃腸病院緩和ケア科 医師)

以下、発表内容から抜粋

齋藤嘉子氏 (東京都) 乳がん



「乳がんのサポーター仲間の笑顔と勇気をもらいました。」<動画で紹介>
「ひびの入ったクリスタル。修理の仕方は人それぞれ違うことを学びました。
自分のものは、自分で自分自身の方法でひびを直す必要があると、……」

森村千春氏 (兵庫県) 子宮頸がん



がんになってから聞いた言葉の中から、私への印象的な言葉、3つを紹介
「痛かったでしょう。大変だったでしょう。」(術後の私に対する妹の言葉)
「運動しないとだめ」(運動嫌いの私に対する母の最期の言葉)
「あなたはね。長生きするためにがんになった。」(私を気遣う友人の言葉)

藤本和子氏 (大阪府) 肺がん



「患者仲間のお二人には、よき仲間として今でも感謝しております。」
「このままでは死ねないと思い、富士山に登ることチャレンジしました。」
「今を生きること。今を楽しむことが大切だと思います。」

西垣京子氏 (奈良県) 肝細胞がん



「がんの告知を受けた際に、『勝ちます』と主治医に答えました。この言葉が何度も続く手術に耐えられことにつながったと思います。」
「感謝し、楽しいことを考えて、前向きに生きていきたい。」

西芝一機氏 (大阪府) 副鼻腔がん



20代で、がんと視覚障害という2つを背負うことになった。
「周りの方に感謝したいです。みんなが助け合っていく世の中にしたいです。」
「前向きに生きること。前向きに行動することが可能性を生むと思います。」

「今生きていることに感謝。当たり前に行っていることに幸せを感じます。」

荒木 弘氏 (福岡圏) 肝臓がん 遺族 (奥様すい臓がん)



「家内の最期の言葉。父さん、本当に愛している。」
「家内とは、今でも仏壇の前で話をします。母さん、本当に愛している。」
「命のろうそくの長さは生まれたときから決まっていると思います。でも、短くても自分が思う場所を照らすことができると思います。」

3部：シンポジウム 「がんを生きること」 16:00～16:30

阿南里恵氏、田村 亮氏、体験発表者 6名、宮本直治 (ゆずりは代表)





宮本が司会になり、「本日の感想、大切にしているもの、一日一日を大切に生きるとは？」などについて、各人の考えを発表し、意見交換した。

3. 実施の効果

1) 発表者の声から

- がん経験者の皆様それぞれにストーリーがあり、また人生の学びがあるのだということ会場の皆様と共有できたのではないかと思います。素晴らしい会でした。
- 大勢の人の目で発表するのも初めてでとてもよい経験になりましたし、他の方の発表を聞いてとても勉強になりました。自分の中で何か変わるきっかけになったと思います。
- 体験談を聞く事で、自分だけでないという安心感が生まれ、次に進む勇気に繋がるように思います。今回の講演会で一番成長したのは誰よりも、自分自身だと思います。
- 思いをきちんと伝えられたのかという不安はありますが、他の方のお話も聞かせて頂き学ぶことも多くありました。これからの自分に活かしていけるように日々思いを重ねてゆきたいと思いました。

2) コメンテーターの声から

- 壇上から見ていると、発表者の言葉一つ一つに頷いている参加者が多くありました。自分と同じ考えや気持ちを聴いて、自分の生きざまを再発見して

いたと思います。体験者の発表を聴いていた参加者皆さんも『感謝』と『やさしさ』を体験されたと思います。

3) 一般参加者の声

- 涙なしには聞くことの出来ない、貴重な、心から、身体からにじみ出る言葉の数々。言い表せないたくさんの思いも経験も辛さも背負いつつ、発表された皆様が前向きで、私の方が勇気づけられました。
- 皆さんの表情がとても明るく、自分の今の状態をしっかり受け入れているのが伝わってきました。ここまで受容するのは大変な経緯だと思いますが、それを感じさせない前向きな姿勢には感動しました。
- これだけ大きな活動をしているがん患者会があることを知り驚きました。がん患者会の社会的意義が理解できたような気がしました。一方、がん患者会に集まる人のなかには、社会に発信することが目的ではなく、小さな集まりのなかで語り合うことだけを目的にきている患者さんも多いと思います。

4) 実行委員の声

- 皆さま方のご協力のおかげで、ひとつの社会貢献をやりきったように感じます。本当にありがとうございました。
- 今回、出会った皆さまおひとりおひとりのキラキラした宝物を見せていただいた気がします。あらためて、実感します。私も、輝いて生きよう、と。
- 本当に素敵な方ばかりでした。患者会はみな、心のうちにある思いを伝えたい方や価値観に触れたい方、思いに寄り添いたい方、何か手伝いたい、何か役に立ちたい、学びたい、そういう方の集まりなので、素敵な方ばかりなのではないでしょうか。この会で、温かさと優しさを、私は感じました。

5) 報道 神戸新聞 11月4日朝刊掲載

4. 参考資料リスト

- 1) 実施体制
- 2) 体験発表者募集のチラシ
- 3) 事前案内のチラシ
- 4) 当日の配布パンフレット

以上